

# 2017年の回顧と新年の展望

## ～ 2017年の回顧 ～

### 国内景気～緩やかに回復

2017年の国内景気を振り返りますと、海外景気の改善を受け輸出関連産業を中心に生産が増加基調で推移したほか、設備投資や個人消費も上向いてきたことから、緩やかに回復しました。

項目別にみますと、個人消費は力強さを欠きつつも緩やかな持ち直しの動きがみられました。夏場以降の天候不順などマイナス要因があったものの、雇用・所得環境の改善に加えて、日経平均株価上昇による資産効果等もあり、消費マインドは徐々に上向きました。

設備投資も、改善の動きがみられました。企業の業績改善を背景に、生産能力増強投資や人手不足に対する合理化・省力化投資に加えて、IoT（モノのインターネット）時代の到来を受け、将来に向けての研究・開発投資意欲も高まりました。また、東京オリンピック・パラリンピック関連の建設需要も増加するなかで、首都圏を中心に宿泊施設や店舗等の設備投資が活発化しました。

生産は、堅調な外需を背景に輸出が拡大するなか、総じて増加基調で推移しました。業種別にみますと、世界的にIT関連需要が拡大するなかで電子部品・デバイスが好調であったほか、半導体製造装置、工作機械、産業用ロボット等でも総じて増産の動きがみられました。

### 県内景気～横ばい圏を脱し、緩やかに回復

県内景気を振り返りますと、年初は横ばい圏内での推移となりましたが、好調な機械工業がけん引役となり生産面で増勢を強めたほか、設備投資や個人消費にも持ち直しの動きがみられるなど、全体として緩やかに回復してきました。

項目別にみますと、個人消費は年前半に力強さを欠いたものの、徐々に持ち直しに向かいました。大型小売店販売は、食料品が堅調に推移したほか、これまで苦戦していた衣料品も年央以降に動きがみられました。また、乗用車販売は、年間を通じて堅調に推移しました。なお、9月以降の日経平均株価の上昇を受け、高額品にも動きがみられました。

設備投資は、景気の先行き不透明感が払しょくされないなかで慎重姿勢も窺われましたが、高稼働が続く機械工業など製造業を中心に生産能力拡大投資が活発化したほか、商業施設、物流施設にも動きがみられるなど、幅広い業種で持ち直しの動きがみられました。一方、公共投資は、土木、建築とも低調な状況が続き、住宅投資も持家、貸家とも前年を下回る推移となりました。

生産は、機械工業で好調な動きが続きました。世界的な設備投資需要の拡大は、

半導体製造装置や工作機械関連産業が集積する山梨県にとって追い風となり、鉱工業生産指数は全国平均を大きく上回る水準で推移しました。このようななか、県内メーカーからは「過去最高水準の稼働状況」との声も聞かれました。品目別にみますと、半導体製造装置、工作機械、スマートフォンや車載向け電子部品などで高操業が続いたほか、板金加工や資材メーカーなど関連業種への波及もみられました。一方、宝飾、ワイン、ニット、織物などの地場産業は、取扱品目や販売チャネル等によりばらつきがあるものの、節約志向や輸入品との競合などから、全体としては厳しい局面が続きました。

なお、観光関連をみますと、国内客が減少したほか、これまで増勢が続いていた中国人観光客も前年割れとなりました。中国人観光客に関しては、観光のスタイルが団体旅行から個人旅行にシフトしていることに加えて、日本へのリピーターが増加するなかで一度訪れている富士山周辺以外の観光地を選ぶ動きがみられました。一方、タイや香港、インドネシアなどアジア諸国からの観光客は増加傾向で推移しました。

## ～ 新年の展望 ～

### 国内景気～回復基調は崩れず

2018年の国内景気は、外需の堅調が見込まれるなかで、輸出にけん引されて生産が増加していくこと、国内における設備投資も増加していくこと、企業部門の好調が徐々に家計部門に波及し個人消費も上向いていくものとみられることから、引き続き回復基調で推移することが見込まれます。

項目別にみますと、個人消費は企業収益の改善が給与や賞与の増加を通じて徐々に家計部門に波及していくことが見込まれるなかで、緩やかに上向いていくと考えられます。また、株価が強含みで推移していけば、消費マインドの改善にも寄与していくとみられます。

設備投資も、好調な企業業績を背景に、増加していくことが予想されます。喫緊の経営課題となっている人手不足への対策としての合理化・省力化投資が活発化していくほか、東京オリンピック・パラリンピック関連のインフラ投資も底上げ要因となります。

生産は、堅調な外需を背景として輸出の好調が続くことや国内における設備需要も増加が見込まれるなかで、増勢が続くとみられます。

なお、海外経済や北朝鮮情勢の動向如何で外需や為替・株式相場が大きく左右され、景気の下押し要因となる可能性もあるため、注視していく必要があります。

### 県内景気～緩やかな回復が継続

県内景気は、機械工業を中心に生産面が好調を持続するほか、設備投資や個人消費も改善傾向で推移することが見込まれることから、緩やかな回復が続くとみられます。

項目別にみますと、個人消費は生産面の好調を背景に雇用・所得環境の改善が見込まれることから、持ち直しの動きが続くとみられます。

設備投資も、回復基調で推移すると考えられます。好調が続く機械工業で生産能力増強投資が増加していくことに加え、人手不足対策として合理化・省力化投資需要も強まっていくことが予想されます。なお、「県内企業経営動向調査」（山梨中央銀行）の平成 29 年度下期（29 年 10 月～30 年 3 月）の設備投資計画においても、実施予定率や投資額に前向きな姿勢が窺われます。

生産は、半導体製造装置や工作機械関連など機械工業の好調が続くとみられます。一方、宝飾、ワイン、ニット、織物などの地場産業においては、人口減少等により国内需要が伸び悩むなか、機械工業と比べると厳しい状況が続くと考えられます。ただし、その一方で IT 技術の進展に伴い、インターネット等を活用した販売チャネルの拡大、海外への販路拡大など従来とは違うビジネスチャンスも生まれているなかで、国内需要の減退をカバーしていくための選択肢は増えていくと考えられます。

## ～ 戌（イヌ）の話 ～

平成 30 年は、戌年です。戌（犬）は、哺乳綱食肉目イヌ科イヌ属の動物です。世界中で最も広く分布している家畜であり、世界中で飼育されている犬は 400 種類以上にもなります。

一般に日本犬と呼ばれる犬は、立ち耳、巻き尾または差し尾をもった日本土着犬の総称であり、秋田犬、北海道犬、紀州犬、四国犬、甲斐犬、柴犬の 6 種だとされています。このほかにも、チン、土佐犬、日本テリア、日本スピッツなどが日本を原産国とする品種として知られています。

犬は走力に長け、人間の数万倍にもおよぶ嗅覚を持っており、獲物の発見や追跡に優れた能力を発揮します。また、飼主に対して従順で飼育しやすいため、番犬、猟犬、救助犬、警察犬、盲導犬、牧羊犬などとして様々な分野で犬が活用されています。多くのシェパードやドーベルマンが警察犬として活躍し、セントバーナードはアルプス山中の僧院で飼われ、雪山で遭難した旅人を救っています。メキシコ地震で救助犬が多くの生存者を救助したのは有名な話となっています。

犬は人によって家畜化された最古の動物と言われています。旧石器時代の遺跡であるパレヤウラ洞窟（イラク）から約 1 万 2 千年前の犬の骨が出土しており、ジャガー洞窟（アメリカ）からは 1 万年から 1 万 7 千年前の犬骨が発見されています。また、動物行動学者の K・ローレンツの著書『人・イヌにあう』では、人と犬はすでに 5 万年前から共生関係を持っていたと記されています。日本でも、縄文時代早期の遺跡である夏島貝塚（神奈川県）や上黒岩岩陰遺跡（愛媛県）から犬の骨が出土しているほか、新石器時代にはすでに犬が飼育されていたことがわかっています。

「犬公方」と呼ばれた徳川五代将軍綱吉は、生類憐みの令を出して犬の愛護を奨励しました。中野、大久保に犬小屋を作りましたが、大久保の犬舎は 2 万 5 千坪、中野は 1 万 6 千坪もあり、そこに保護された犬の数は約 4 万 9 千匹にのぼりました。

J R 渋谷駅前の「忠犬ハチ公」は秋田犬であり、ハチ公は朝夕渋谷駅に愛犬家

の上野英三郎教授を送迎するのを日課にしていました。教授が亡くなった後も、ハチ公は教授の旧宅や渋谷駅で帰らぬ主人を待ち、一日も渋谷駅を離れることはありませんでした。このエピソードが美談化され、渋谷の名物となったハチ公の銅像が昭和9年に建てられました。駅前に立つハチ公の銅像は、待ち合わせの場所として知られ、渋谷のシンボルとなっています。

犬はお産が軽く、しかも生まれた仔犬もよく育つということで、昔から安産や子育ての守護として用いられてきました。子授け・安産・子育てに関連した信仰は各地にあります。東京都では人形町の水天宮が有名で、特に戌年・戌の月・戌の日には多くの人々が参拝しています。また、郷土玩具である犬張り子は子育ての縁起物として知られ、ざるをかぶった犬張り子は幼児の鼻詰まりよけとして宮参りに贈る習慣があります。

わが国の戌年の歴史を振り返りますと、平安京遷都(794)、寛政異学の禁(1790)、生麦事件(1862)、韓国併合(1910)、日本国憲法公布(1946)、東京タワー竣工、一万円紙幣発行(1958)、自社さ連立政権誕生(1994)などの出来事がみられました。

山梨県関連では、興益社設立(1874)、雨宮製糸争議(1886)、中央線甲府—新宿間全線複線化(1970)、中央自動車道全面開通(1982)、市町村合併による「中央市」、新「甲府市」、新「富士河口湖町」、新「北杜市」、新「笛吹市」誕生(2006)などの出来事がみられました。

なお、戌年生まれの著名人としては、石川さゆり、石川啄木、石原裕次郎、井上ひさし、小栗旬、黒澤明、堺正章、平清盛、萩野公介、マキタスポーツ、森鷗外、吉田沙保里などがいます。

陰陽五行によると、平成30年は、「戌戌(つちのえいぬ・ぼじゅつ)」にあたります。「戌」は、茂と同義語で、万物が盛んに茂ることを意味しています。また、「戌」は、滅と同じで、万物が脱落してことごとくなくなることを意味しています。このため、「戌戌」は、「今後も成長していくために、これまでの活動を思い切って改める革新の年」ということにもなるのでしょうか。

ところで、「犬も歩けば棒に当たる」という諺には二つの意味があることをご存知でしょうか。ひとつは、外に出ると災難に遭うという否定的な意味です。もうひとつは、外に出るからこそ思わぬ幸運に出会うという肯定的な意味です。新しい年をさらなる成長の年にするために、チャンスが訪れるのを待つのではなく、積極的に外に出て自らチャンスをつかみ取っていく「攻めの姿勢」で臨んでいきたいものです。

※戌(イヌ)の話は、十二支の民俗誌(八坂書房)などから当社で作成

※こちらの資料は毎年12月に当社ホームページ  
(<https://www.yamanashiconsul.co.jp/>)に  
掲載しますので、是非ご活用ください。

2017年12月  
山梨中銀経営コンサルティング株式会社